

## 外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/07/25

### 市場の関心が欧州の次は米国に移るか

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	豪第2四半期CPIに注目 予想レンジ: 83.30 ~ 86.30 円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	早期利上げ期待は高まるか 予想レンジ: 66.30 ~ 69.30 円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	➡	リスク回避の動きが続く可能性 予想レンジ: 11.30 ~ 11.70 円	6 - 7
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD/JPY

## 豪ドル/円 7/18~22の主な推移



<b>7/18</b> Monday	欧州の債務や信用に対する不安に加え、米国の債務上限引き上げをめぐる協議が難航している事を背景にNYダウ平均が寄り付きから大きく下落すると、リスク回避の動きから豪ドル/円は83.50円まで下落した(①)。
<b>7/19</b> Tuesday	豪準備銀行(RBA)理事会の議事録が公表され、「ある時点で利上げが必要になる」との文言が外された事を受け、発表直後に豪ドル/円は20銭以上下落した。ただ同時に、「現在の若干引き締め気味の政策が引き続き適切」とも述べており、84円割れの水準では底堅く推移した(②)。しかしその後、欧米株が堅調に推移すると、豪ドル/円は反発。また、オバマ米大統領が声明で「債務上限引き上げ協議にある程度の進展があった」と述べ、NYダウ平均が一段高となると、豪ドル/円は引けにかけて84.98円まで上昇した(③)。
<b>7/21</b> Thursday	11時半にHSBCが発表した中国7月PMI製造業が49.1となり、好不況の分かれ目となる50.0を下回った事を受け、中国の景気減速懸念が浮上。同国と経済的結び付きの強い豪州経済への影響が懸念されると、その後豪ドル/円は84.23円まで下げた(④)。ユーロ圏首脳会議でギリシャに対する第2次支援が合意されたことを受け、ギリシャの当面のデフォルト懸念が後退し、欧米市場では株高が進行した。これを受けてリスクを積極的に取る動きとなると、豪ドル/円は一時85.27円まで上昇した(⑤)。
<b>7/22</b> Friday	前日のユーロ圏首脳会議での合意を好感して欧米株が上昇した流れを引き継ぎ、アジア株も上昇すると、豪ドル/円は底堅く推移。また、アジア株の上昇を受けて欧州株が堅調に推移すると、豪ドル/円は一時85.32円まで上昇した(⑥)。

## AUD / JPY

## 上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退  
→リスクを取ることへの積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念
- ・豪州の利下げ観測

## 今週の見通し

27日、豪第2四半期消費者物価指数の発表が予定されており、本稿執筆時点での事前予想では、前期比+0.7%、前年比+3.4%、また、RBAが注目している基調インフレ率は前年比+2.5%が見込まれている。先月15日、スティーブンスRBA総裁は「消費者物価指数は政策決定にとって重要」と述べており、今回の発表には市場の関心が集まっている。先月より、金利先物市場ではRBAの利下げを織り込む動きが続き、為替市場でも利下げが織り込まれ始めている中、物価の伸びの鈍化が示されるようだと、為替市場でも利下げ観測が高まり、豪ドル/円は売り優勢の展開が予想される。

また29日、米国では第2四半期国内総生産(GDP)・速報値の発表が予定されている。仮に予想を下回る場合は米経済の停滞観測が一段と意識され、米株が下落し豪ドル/円には下げ圧力がかかりやすいと見られる。一方で事前予想を上回る伸びを示す場合、米株の上昇により豪ドル/円が強含む事も考えられる。

その他、米国の債務上限引き上げ問題について、現時点では当事者間の意見の隔たりが大きく、8月2日の期限を前に、綱渡り的な駆け引きが続く公算が大きい。このため、市場ではリスクを積極的に取る動きにはつながりづらく、豪ドル/円は上値の重い展開が予想される。一方、もしも交渉がまとまる場合はリスク回避の動きが後退し、豪ドル/円は買い優勢となる事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 83.30~86.30 円)

# NZD/JPY

## NZドル/円 7/18~22の主な推移



<b>7/18</b> Monday	NZ第2四半期消費者物価指数は前期比+1.0%、前年比+5.3%といずれも予想(+0.8%、+5.1%)を上回った。これを受け、NZドル/円は発表直後に30銭以上急騰して67.15円まで上昇した(①)。ただその後、時間外のNYダウ平均先物の下落を受け、一時66.45円まで下げる場面も見られた(②)。
<b>7/19</b> Tuesday	日経平均株価が上げ幅を拡大した事を背景に、NZドル/円は底堅く推移した。その後、欧米株の堅調推移を背景に、NZドル/円は上昇が続いた。また、オバマ米大統領が声明で「債務上限引き上げ協議にある程度の進展があった」と述べ、NYダウ平均が一段高となると、NZドル/円は続伸した(③)。
<b>7/21</b> Thursday	ユーロ圏首脳会議でギリシャに対する第2次支援が合意されたことを受け、ギリシャの当面のデフォルト懸念が後退し、欧米市場では株高が進行した。これを受けてリスクを積極的に取る動きとなると、NZドル/円は一時67.86円まで上昇した(④)。
<b>7/22</b> Friday	前日のユーロ圏首脳会議での合意を好感した流れを引き継ぎ、アジア株が上昇した事や、ギリシャやイタリアとドイツとの10年債利回り格差が縮小した事を背景に欧州株が堅調に推移すると、NZドル/円は2010年5月以来の高値水準となる68.04円まで上昇した(⑤)。

# NZD / JPY

## 上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることへの積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・NZの利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・NZの利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

## 今週の見通し

28日早朝、NZ準備銀行(RBNZ)の政策金利発表が予定されている。今後NZ国内で地震被害による復興需要が期待される中、今月14日に発表された第1四半期国内総生産(GDP)が強い伸びを示した事に加え、物価も上昇している事から、市場では年末までにRBNZが利上げを行うとの観測が浮上している。とはいえ、今回については金利据え置き予想がコンセンサスとなっており、市場の関心はその際の声明に集まりそうだ。仮にタカ派的な内容が述べられ、早期利上げ期待が浮上する場面では、NZドル買いが強まる事が予想される。

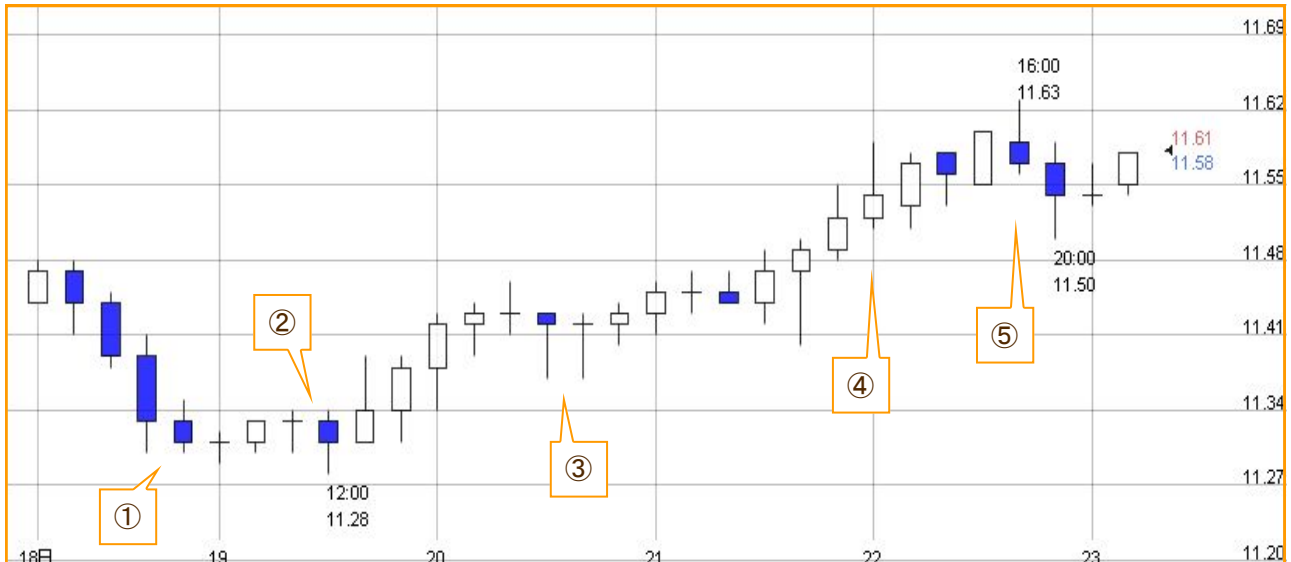
一方、米国の債務上限引き上げ問題について、現時点では当事者間の意見の隔たりが大きく、8月2日の期限を前に、綱渡りのな駆け引きが続く公算が大きい。このため、市場ではリスク回避の動きから、NZドル/円は上値の重く展開が予想される。もし、交渉がまとまる場合はリスク回避の動きが後退し、NZドル/円は買い優勢となる事も考えられる。その他、29日の米第2四半期GDPに加え、26日～28日に予定されている米国債入札にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ:66.30～69.30円)



## ZAR/JPY

## ランド/円 7/18~22の主な推移



<b>7/18</b> Monday	欧州の債務や信用に対する不安に加え、米国の債務上限引き上げをめぐる協議が難航している事を背景に、NYダウ平均が寄り付きから大きく下落すると、リスク回避の動きからランド/円は下落した(①)。
<b>7/19</b> Tuesday	日経平均株価が引けにかけて下げ幅を拡大した事を受け、ランド/円は一時3月18日以来の安値水準となる11.28円まで下落(②)。ただその後、欧米株の堅調推移を背景に、ランド/円は反発。また、オバマ米大統領が声明で「債務上限引き上げ協議にある程度の進展があった」と述べ、NYダウ平均が一段高となると、ランド/円は上昇した。
<b>7/20</b> Wednesday	17時に発表された南アフリカ6月消費者物価指数は前年比+5.0%と、事前予想と一致。また、20時に発表された南ア5月実質小売売上高は、前年比±0.0%と予想(+7.2%)と比べかなり弱い数値となった。しかし、いずれも市場の反応は限定的であった(③)。
<b>7/21</b> Thursday	ユーロ圏首脳会議でギリシャに対する第2次支援が合意されたことを受け、ギリシャの当面のデフォルト懸念が後退し、欧米市場では株高が進行した。これを受けてリスクを積極的に取る動きとなると、ランド/円は一時11.59円まで上昇した(④)。なお22時過ぎ、南アフリカ準備銀行(SARB)は政策金利を年5.5%にて据え置く事を発表した。マーカスSARB総裁は会見で、成長率見通しについては前回と変わらず、2011年は年3.7%、2012年は年3.9%とした。なお、インフレ見通しは2012年の平均を6.3%と前回(6.0%)を上回るも、2013年第4四半期には5.6%に低下するとした。しかし、いずれも市場の反応は薄かった。
<b>7/22</b> Friday	前日のユーロ圏首脳会議での合意を好感して欧米株が上昇した流れを引き継ぎ、アジア株も上昇すると、ランド/円は底堅く推移。またその後、アジア株の上昇を受けて欧州株が堅調に推移すると、ランド/円は一時11.63円まで上昇した(⑤)。

## ZAR/JPY

## 上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることへの積極性が増す
- 主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・南アの利上げ観測の浮上
- ・日本の円売り介入

## 下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる
- 主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷
- ・南アの利下げ懸念の浮上

## 今週の見通し

先週発表された南アフリカの政策金利発表は、政策金利の見通しについてヒントをもたらす内容ではなく、ランド/円相場での反応は薄かった。しかし、ユーロ圏首脳会議でのギリシャに対する第2次支援が合意されたことを受け、ギリシャの当面のデフォルト懸念が後退。これを受けリスク回避の動きが和らぐと、ランド/円は反発した。

先週まではギリシャのデフォルト回避が、ランド/円相場を動かす材料であったが、この問題が一段落したことで、今週は米国の債務上限引き上げ問題が、ランド/円相場を動かす材料となる可能性が出てきた。米国の債務上限引き上げ問題について、現時点では当事者間の意見の隔たりが大きく、8月2日の期限を前に、綱渡り的な駆け引きが続く公算が大きい。このため、市場ではリスク回避の動きから、ランド/円は上値の重い展開が予想される。一方、もしも交渉がまとまる場合はリスク回避の動きが後退し、ランド/円は買い優勢となる事も考えられる。その他、29日の米第2四半期国内総生産(GDP)に加え、26日～28日に予定されている米国債入札にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ:11.30～11.70円)

## 経済指標カレンダー (7/25~28)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/25 (月)	10:30		(豪) 第2四半期生産者物価指数 [前年比]	+2.9%	—
7/26 (火)	07:45	○	(NZ) 6月貿易収支	+6.05億NZD	+4.00億NZD
	15:00		(独) 8月GFK消費者信頼感調査	5.7	5.6
	17:30	◎	(英) 第2四半期GDP・速報値 [前期比]	+0.5%	+0.1%
		◎	(英) 第2四半期GDP・速報値 [前年比]	+1.6%	+0.7%
	22:00		(米) 5月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.96%	-4.65%
	23:00	○	(米) 6月新築住宅販売件数	31.9万件	32.0万件
			(米) 6月新築住宅販売件数 [前月比]	-2.1%	+0.3%
	23:00	○	(米) 7月消費者信頼感指数	58.5	57.9
	23:00	○	(米) 7月リッチモンド連銀製造業指数	3	5
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
7/27 (水)	10:30	◎	(豪) 第2四半期消費者物価 [前期比]	+1.6%	+0.7%
		◎	(豪) 第2四半期消費者物価 [前年比]	+3.3%	+3.4%
	17:00		(ユーロ圏) 6月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.4%	+2.4%
	18:30		(スイス) 7月KOF先行指数	2.23	2.10
	21:30	○	(米) 6月耐久財受注 [前月比]	+2.1%	+0.3%
		○	(米) 6月耐久財受注 [前月比:除輸送用機器]	+0.7%	+0.5%
	27:00	○	(米) 米地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
	未定	◎	(独) 7月消費者物価指数・速報 [前月比]	+0.1%	+0.3%
		◎	(独) 7月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
7/28 (木)	06:00	◎	(NZ) RBNZオフィシャル・キャッシュレートの	2.50%	—
	16:55	○	(独) 7月失業者数	7.0%	7.0%
	16:55	○	(独) 7月失業率	-0.8万人	-1.3万人
	18:00		(ユーロ圏) 7月消費者信頼感・確報 [前年比]	-11.4	-11.4
	18:30		(南ア) 6月生産者物価指数 [前年比]	+6.9%	+7.0%
	21:30	◎	(米) 7/22までの週の新規失業保険申請件数	41.8万件	--
	23:00	○	(米) 6月中古住宅販売成約 [前月比]	+8.2%	-2.0%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—

巻末の特記事項を必ずお読みください。



## 経済指標カレンダー (7/29)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/29	07:45		(NZ) 6月住宅建設許可 [前月比]	+2.2%	+3.0%
(金)	08:01		(英) 7月GFK消費者信頼感調査	-25	-24
	08:30	○	(日) 6月全国消費者物価指数 [前年比]	+0.3%	+0.2%
		○	(日) 6月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	+0.6%	+0.5%
	08:30		(日) 6月失業率	4.5%	4.6%
	08:50		(日) 6月鉱工業生産・速報 [前月比]	+6.2%	+4.4%
			(日) 6月鉱工業生産・速報 [前年比]	-5.5%	-1.3%
	17:30		(英) 6月消費者信用残高	+2億GBP	+3億GBP
	17:30		(英) 6月マネーサプライM4 [前年比]	-0.2%	—
	18:00	◎	(ユーロ圏) 7月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.7%	+2.7%
	19:00	○	(日) 外国為替平衡操作の実施状況 (6月29日～) [月ベース]	0円	—
	21:00		(南ア) 6月貿易収支	-10億ZAR	-10億ZAR
	21:30	○	(加) 5月GDP [前月比]	±0.0%	+0.1%
	21:30	◎	(米) 第2四半期GDP・速報値 [前期比年率]	+1.9%	+1.7%
	21:30		(加) 6月鉱工業製品価格 [前月比]	-0.2%	—
	22:45	◎	(米) 7月シカゴ購買部協会景気指数	61.1	60.0
	22:55	○	(米) 7月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	63.8	64.0

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。